

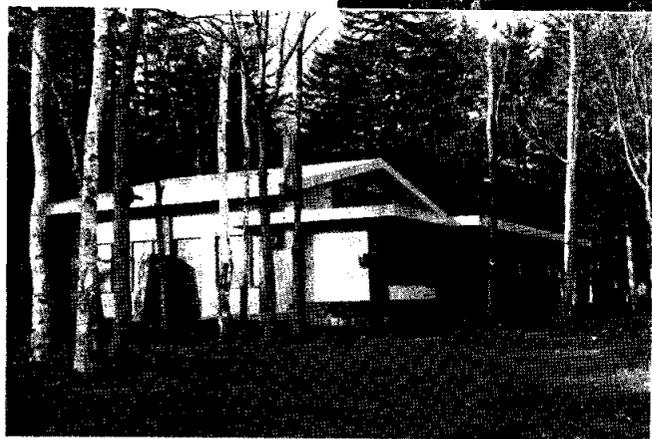
川湯の自然教室



案内板

〔写真と文〕

三 浩 依



全 景

国立公園自然教室は、国立公園来訪者にその地域の地質や動植物など自然のなりたちや、ときには人文的特長を親しみぶかく理解させ、自然愛護思想の普及をはかることを目的とした施設である。

日本の国立公園はややもすると観光飲業の利用に押されぎみで、野外の自然教室としての役割りは軽視され、また、そのための施設や解説制度もきわめて貧弱なのが実情である。日本の国立公園の自然教室制度は、アメリカのビクターセンターにヒントを得て、数年前から整備されるようになったもので、現在、全国に十数カ所、北海道に二カ所が整備されている。

しかし、現在の予算制度では自然教室の建物は厚生省の直轄、または補助事業となり得ても、肝心の展示内容物には国費がでず、まさに仏つくって魂入れずという矛盾があり、多くは地元負担に頼っているのが現状である。その故もあって展示解説内容は、関係者の努力にもかかわらず、まだ、あまり理想的なものではできあがっていないという。

阿寒国立公園川湯自然教室は、厚生省阿寒国立公園管理事務所併設され

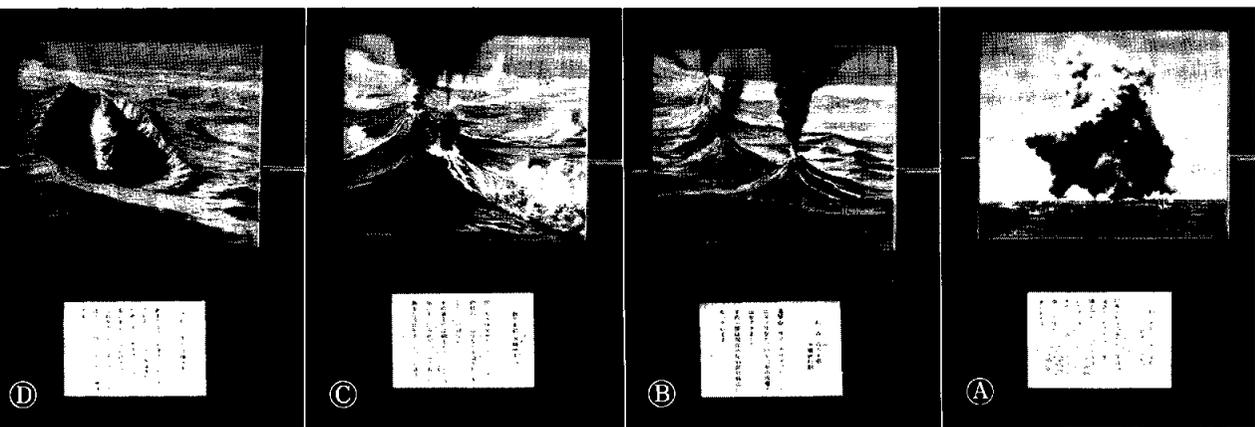
て、昭和四十五年初夏に開設されたもので、建物は鉄筋コンクリート一部二階建、事務所スペースとも二九五平方m、工費一五、〇〇〇千円（厚生省直轄事業）、展示物は立体地形模型（二万五千分の一）ほか、パネル類が主で、工費二、三〇〇千円（国立公園協会、弟子屈町、川湯ビクターセンター運営委員会共同負担）である。

展示や解説の実施にあたっては、全体計画を学習研究社の秋山智弘、地質関係を北大理学部・石川俊夫、勝井義雄、熊野純男、植物関係を北大農学部・辻井達一の諸先生からご指導、ご助言をいただいた。

展示は、あまり博物館的な感じとせず、ゆったりとした休憩ロビーやユーモラスな漫画風壁画などをとりいれ、親しみやすくするとともに、川湯地域の最大の最大特長である屈斜路、摩周カルデラがどのようにしてできあがったか、火山活動が川湯周辺の植物にどんな影響を与えているか、を主テーマとしてとりあげた。

四十五年夏の利用者は一日一〇〇〇二〇〇名程度で、かなり熱心に見てくれる人が多かったようである。

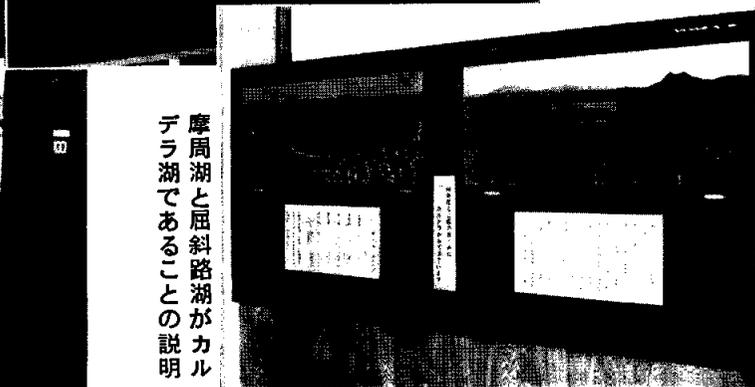
（阿寒国立公園管理事務所長）



阿寒国立公園のあらまし

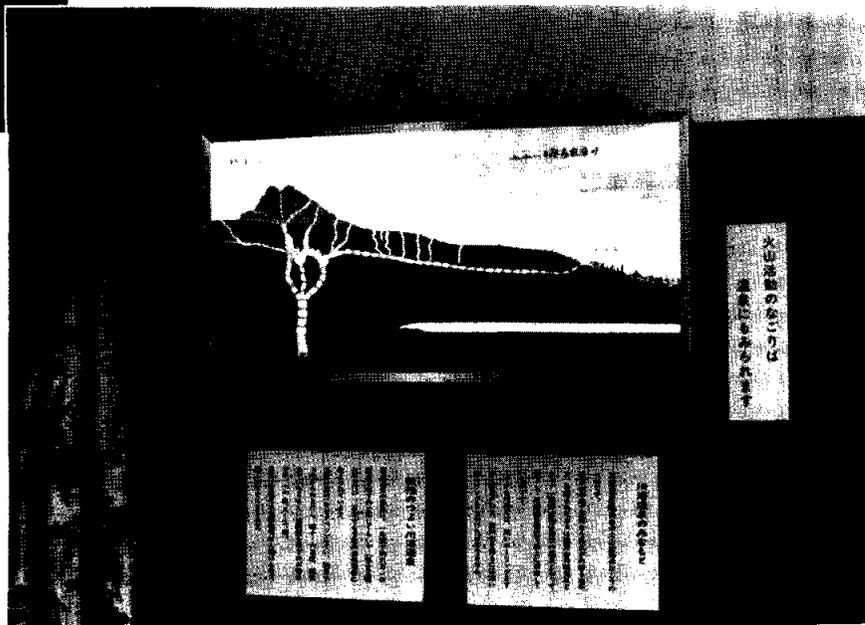


ヒグマの剥製



摩周湖と屈斜路湖がカル
デラ湖であることを説明

川湯温泉のみなもと (テクニカル・アニメーション)



火山活動のなごりば
遺跡にもみられる

- ⑤ 約二万〜一万年 前 (古アトサズブリ、和琴、中島などの後カルデラ火山噴出)
- ⑥ 約一万年 前 (屈斜路カルデラの東端に摩周火山成長)
- ⑦ 約七千年 前 (摩周火山もはげしく軽石火山灰を噴出し、やがてカルデラに)
- ⑧ 約五千〜千年 前 (カムイヌブリ、硫黄山などができて、ほぼ現在の地形に)

屈斜路湖と摩周湖の生いたち

- ④ 約二千万～一千万年前（海底火山の時代）
- ③ 約二百万～百万年前（いくつかの成層火山の成長）
- ② 数万年前（はげしい爆発、軽石火山灰の噴出）
- ① 約三万年前（屈斜路カルデラの生成）

樹幹標本



森の住人たち

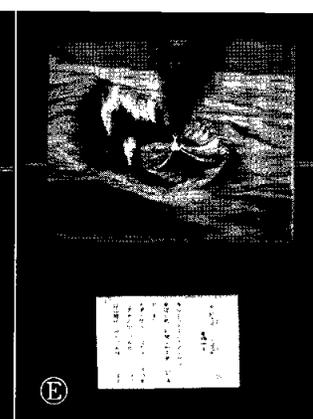
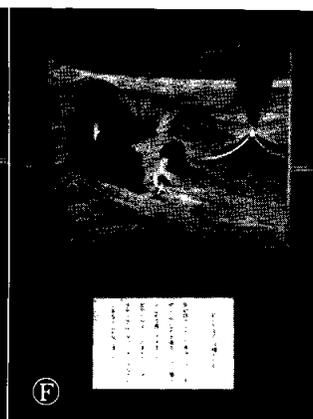


自然愛護のエチケット
(2.7×4.5mの壁画)

Display and explanation
in visitor's center.

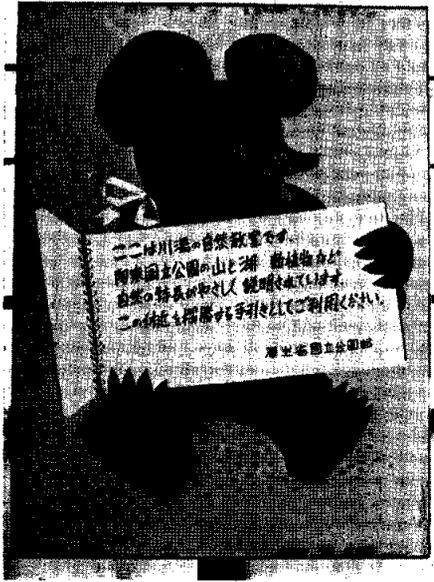


休憩ロビー
(国立公園相談室)

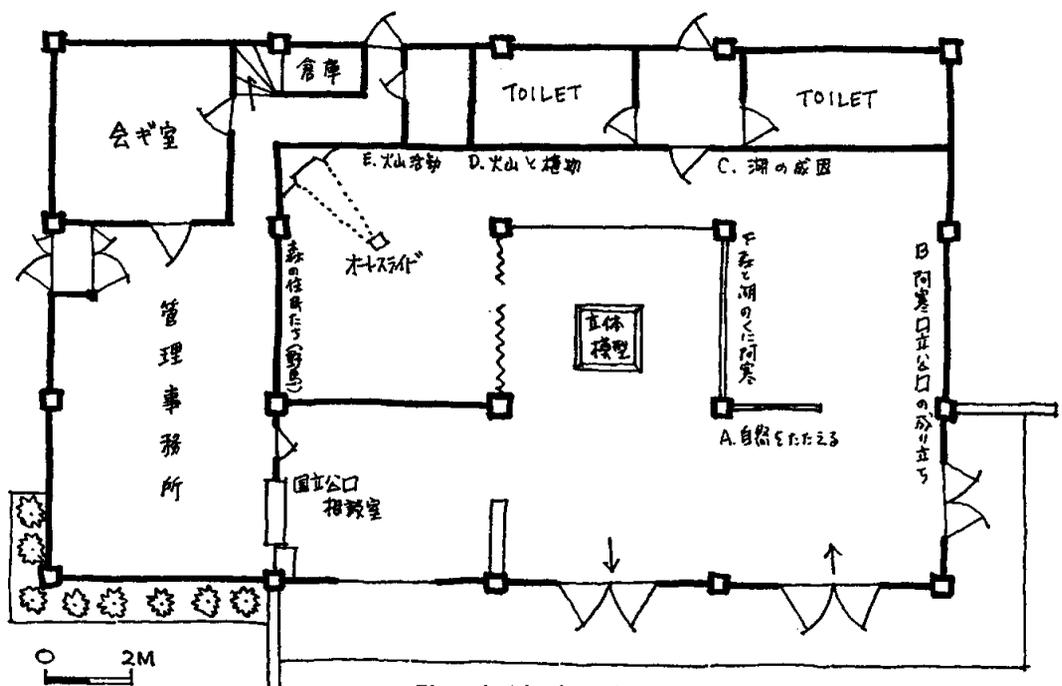




硫黄山麓のイソツツジお花畑
Ledum palustre on volcanic ash.



趣意書とパンフレット



Plan of visitor's center.